

課題名

秋肥の施用時期とミカン果実の品質

成果の要約

秋肥は現行基準（11月上旬）より1旬早く施用しても、果実の浮皮、着色に悪影響はみられなかった。

成績概要

秋肥の施用時期を10月上旬、中旬、下旬および11月上旬に変えた処理区を設けて、収穫時（11月下旬）における浮皮の程度、着色状態を調査した。

1. 浮皮の程度については、施肥時期の影響は明らかでなかった。
2. 着色状態は10月下旬までは、施肥時期が遅いほど良好であったが、10月下旬施肥と11月上旬施肥の差は小さかった。
3. 浮皮の程度、着色状態とも年次毎の変動が大きく、気温や降水量などの気象要因が及ぼす影響も大きいと考えられた。

第1表 浮皮指数と着色進度指数の推移

項目 年度 時期	浮皮指数				着色進度指数 ※			
	54	55	56	平均	54	55	56	平均
10月上旬	—	—	46.1	46.1	—	—	76.9	76.9
10月中旬	46.6	37.1	32.2	38.6	78.5	83.0	81.8	81.1
10月下旬	19.9	28.7	39.0	29.2	79.1	85.2	87.5	83.9
11月上旬	16.9	42.8	30.4	30.0	78.7	85.8	86.9	83.8

※ 完全着色果を100とした場合の指数